

2019前期長期留学プログラム・アメリカ

期 間： 2019年4月1日～2020年1月31日

対 象： 国際コミュニケーション学部 2名

訪問地： アメリカ（カリフォルニア大学リバーサイド校）

目 的： 本科目は本学の海外の姉妹校・友好校（英語圏及び中国）へ、1セメスター留学するために開講するものである。事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。テーマレポートは現地文化や社会の問題点など学部が毎月定めるテーマについて調査・インタビューを行い、作成するものである。帰国後には学修成果について、レポート提出とプレゼンテーションを行う。

内 容： 目標

1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果： 単位認定

1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019後期長期/semester留学プログラム・中国

期 間： 長 期：2019年9月～2020年7月
semester：2019年9月～2020年2月

対 象： 国際コミュニケーション学部 10名

訪問地： ①蘇州大学（長期：2名）
②天津外国語大学（長期：3名）
③大連外国語大学（長期：3名、semester：1名）
④復旦大学（長期：1名）

目 的： 本科目は本学の海外の姉妹校・友好校（英語圏及び中国）へ、1 semester留学するために開講するものである。事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。テーマレポートは現地文化や社会の問題点など学部が毎月定めるテーマについて調査・インタビューを行い、作成するものである。帰国後には学修成果について、レポート提出とプレゼンテーションを行う。

内 容： 目標

1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果： 単位認定

1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019後期長期/セメスター留学プログラム・イギリス

期 間：2019年10月～2020年8月
セメスター：2019年10月～2020年3月

対 象： 国際コミュニケーション学部 6名（長期：1名、セメスター：5名）

訪問地： リージェンツ大学ロンドン

目 的： 本科目は本学の海外の姉妹校・友好校（英語圏及び中国）へ、1セメスター留学するために開講するものである。事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。テーマレポートは現地文化や社会の問題点など学部が毎月定めるテーマについて調査・インタビューを行い、作成するものである。帰国後には学修成果について、レポート提出とプレゼンテーションを行う。

内 容： 目標

1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果： 単位認定

1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019後期長期/semester留学プログラム・オーストラリア

期 間：2019年10月～2020年8月

semester：2019年10月～2020年3月

対 象： 国際コミュニケーション学部 11名

訪問地： ①フリンダース大学（長期：2名、semester：4名）

②ウーロンゴン大学（semester：5名）

目 的： 本科目は本学の海外の姉妹校・友好校（英語圏及び中国）へ、1 semester留学するために開講するものである。事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。テーマレポートは現地文化や社会の問題点など学部が毎月定めるテーマについて調査・インタビューを行い、作成するものである。帰国後には学修成果について、レポート提出とプレゼンテーションを行う。

内 容：目標

1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果：単位認定

1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019後期留学プログラム・アメリカ

期 間： 2019年10月～2020年3月

対 象： 国際コミュニケーション学部 1名

訪問地： アメリカ（カリフォルニア大学リバーサイド校）

目 的： 本科目は本学の海外の姉妹校・友好校（英語圏及び中国）へ、1セメスター留学するために開講するものである。事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。テーマレポートは現地文化や社会の問題点など学部が毎月定めるテーマについて調査・インタビューを行い、作成するものである。帰国後には学修成果について、レポート提出とプレゼンテーションを行う。

内 容： 目標

1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果： 単位認定

1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019後期留学プログラム・ニュージーランド

期 間： 2019年10月～2020年3月

対 象： 国際コミュニケーション学部 2名

訪問地： マッセー大学

目 的： 本科目は本学の海外の姉妹校・友好校（英語圏及び中国）へ、1セメスター留学するために開講するものである。事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。テーマレポートは現地文化や社会の問題点など学部が毎月定めるテーマについて調査・インタビューを行い、作成するものである。帰国後には学修成果について、レポート提出とプレゼンテーションを行う。

内 容： 目標

1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果： 単位認定

1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019後期留学プログラム・マレーシア

期 間： 2019年10月～2020年3月

対 象： 国際コミュニケーション学部 4名

訪問地： トウンク アブドウル ラーマン大学

目 的： 本科目は本学の海外の姉妹校・友好校（英語圏及び中国）へ、1セメスター留学するために開講するものである。事前学修として現地の社会や文化及び安全情報・危機管理について学修する。留学中は現地での諸活動についての週報と、毎月一回のテーマレポートを提出する。テーマレポートは現地文化や社会の問題点など学部が毎月定めるテーマについて調査・インタビューを行い、作成するものである。帰国後には学修成果について、レポート提出とプレゼンテーションを行う。

内 容： 目標

1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果： 単位認定

1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019後期長期留学プログラム・アメリカ

期 間： 2019年10月～2020年8月

対 象： 経済経営学部 1名

訪問地： アメリカ（カリフォルニア大学リバーサイド校）

目 的： 本科目は在学中の1学期あるいは1年間、海外の提携大学へ留学するための科目である。グローバルな視野と異文化への深い理解および高いコミュニケーション能力を有する人材を育成するために、本学部では海外研修や留学プログラムを実施している。

本科目は、海外留学中の経験を「学びの機会」と捉え、その経験を学修につなげたうえで、単位認定を行う。つまり、留学中の現地での様々な「経験」をもとに、学生自身が「経験学習サイクル」をまわし、ふりかえりや成果物の作成を通して、コンピテンシーを育成することをねらいとする。この科目は、「実習」に準ずるものと位置づける。

- 内 容：
- ①毎週3つ程度の経験の場면을思いおこし、その場면을具体的に記述することができる。
 - ②月ごとのふりかえり（パターンシート）を行い、自分の経験からパターンを見出すことができる。
 - ③留学期間全体を振り返り、その経験から学んだ「持論」を引き出すことができる。
 - ④留学経験を通じて獲得した成果や自己の成長をもとに、次の目標を考えることができる。
 - ⑤以上の内容を他者に報告したり、レポートにまとめることができる。

成 果： 単位認定

1. 海外留学A：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019夏季・春季短期留学プログラム

期 間： 2019年8月～9月（夏季）
2020年2月～3月（春季）

対 象： 国際コミュニケーション学部 4名

訪問地： オーストラリア（ウーロンゴン大学：3名）
ニュージーランド（マッセー大学：1名）

目 的： 本科目は、短期海外研修を通して、本学姉妹校・友好校の学生との交流、企業やNGO、NPOへの訪問、文化体験などを通じてその国・地域の文化や社会に対する理解を深め、国際感覚を養うことを目的とする。参加者は事前学修として、現地の社会・文化についてアクティブ・ラーニング形式で学び、また現地学生との交流の際に日本や金沢を英語で紹介できるよう準備を行う。研修後は学修成果についてポスタープレゼンテーションで報告する。

内 容： 1. 事前学習を通じて、現地での活動を充実させる準備を行う。
2. 現地での諸活動を通じて、国際社会で活躍するために必要な意識と能力を身につける。
3. 事後学習を通じて、自分の現時点でのグローバル人材としての意識と能力を把握する。

成 果： 単位認定
1. 海外留学A, B, C, D：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）

2019夏季・春季短期留学プログラム

期 間： 2019年8月～9月（夏季）
2020年2月～3月（春季）

対 象： 経済経営学部 3名

訪問地： オーストラリア（ウーロンゴン大学：2名[夏季]）
ニュージーランド（マッセー大学：1名[春季]）

目 的： 本科目は1週間から10日程度、大学が主催する海外研修プログラムに派遣するための科目である。プログラムは5月中旬に発表する。

グローバルな視野と異文化への深い理解及び高いコミュニケーション能力を有する人材を育成するために、本学部では海外での研修を実施している。

本科目は、海外研修中の経験を「学びの機会」と捉え、その経験を学修につなげたうえで、単位認定を行う。つまり、留学中の現地での様々な「経験」をもとに、学生自身が「経験学習サイクル」をまわし、ふりかえりや成果物の作成を通して、コンピテンシーを育成することをねらいとする。この科目は、「実習」に準ずるものと位置づける。

内 容： ① 留学期間全体を振り返り、その経験から学んだ「持論」を引き出すことができる。
② 留学経験を通じて獲得した成果や自己の成長をもとに、次の目標を考えることができる。
③ グローバルな視野と異文化への深い理解及び高いコミュニケーション能力を身につける。

成 果： 単位認定
1. 海外留学A：6単位
2. 語学科目（最大で当該期分）